

者宜空腹而在、且病在骨髓者宜飽滿而在夜、

〔醫贖中〕一週

今俗病之劇愈、藥之驗否、皆預期以七日、謂之一週、按郎仁寶七修類藁云、天之所以爲天、不過二氣五行化生萬物、名曰七政、人之所以爲生、亦不過陰陽五常之氣行於六脈、見之名曰七情、天之道惟七、而氣至六日有餘、氣盈朔虛推算時刻則爲一候、故天道七日來復、人身之氣惟七、六日而行十二經、一日行一經有餘、故人之疾、至七日輕重判焉、

〔塵塚談下〕斷食して服藥の事、釋迦如來の病を療る方也、七ケ日斷食にて藥を飲み、七ケ日後は生死によらず、藥を用ひずと、佛經に説給ふとかや、今世も、律僧の正しき人は、長病なれば、七ケ日服藥し、八日目一日休藥して、又服藥す、七日々々に一日づゝ、休み、藥用するよしを聞き、此斷食して服藥の方、藥治より萬病に最上の藥なり、痲病、食傷、蟲症、泄瀉、腹痛、積聚、嘔吐の類の病には、別して驗し多し、既に大七氣湯などは、絶食にして用ゆべしと、古人も云へり、予小川顯道しばしば効驗を得たる事なり、疑ふべからず、

〔醫心方二〕針灸服藥吉凶日第七

服藥頌 新羅法師方云、凡服藥呪曰、

南无東方藥師瑠璃光佛、藥王藥上菩薩、耆婆醫王、雪山童子、惠施阿竭、以療者邪氣消除、善神扶助、五藏平和、六府調順、七十萬脈、自然通張、四體强健、壽命延長、行住座臥、諸天衛護、莎訶向東誦一、

〔頓醫抄養性諸篇〕服藥法第十

藥ヲ服スル時ノ呪

南无東方藥師瑠璃光佛、藥王藥上耆婆醫王、雪山童子云々、東向テ一返誦テ、後藥ヲ服スベシ、又云、凡藥ヲ服スルモノハ、必ず意ヲ正シ、信ヲ深クシテ、疑ヲ成、他念ヲ成事勿レ、但其藥ノ口ニ入